



---

## 繁田 隆 ごあいさつ

---

「声がかすれる程、叫んだ青春があったのだろうか…心臓が破れるほどの恋をしたことがあったのだろうか。」

野良仕事の合間に腰を伸ばす。

齢70前の私は、こここのところ何気に思いもよらぬことがよぎるようになってきた。

『真・善・美』をキャンバスの中に追い求める岡野画伯。

大地と向き合い、土にまみれ静かな時を愛す私…。

今、世界では多くの人々が飢え深い悲しみの中にあって随分悩みました。

人間の叡智…、言葉、文字、そして芸術。

今のこのような時代に純粹に素朴に生活できている事。

二度目の画伯の個展は、平和な生活の大切さを改めて自身に問う「縁」となり得ると信じています。

今井美術館関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。



---

## 田邊 勝大 ごあいさつ

---

僭越ですが挨拶させていただきます。

この度、2回目の岡野岬石展が開催できました事は、大変有難く思います。

岡野先生との出会いに寄り、色々と学ばせて頂きました。

「物感とは何か」

それは、対象をそのまま描写する事ではなく、光の描写に変換する事であると思います。

ジョルジョ・モランディの言葉の中に、「対象を等価値で描く」と言っています。この事は、物感の意味と関係しています。

岡野先生の言葉に、「もやる」と言う事を大切にしておられます。この事も、物感と言う事を追求してみると、解釈出来る様に思います。例えば、蜃気楼や霧や虹とか物体に映る影等を、連想すると同時に、これらをどの様に描写するかと、考えますと何となく解釈出来る様に思います。

又、先生の言葉に「その様に描けば良いのです。」と言われます。私自身は、この言葉に悟らせて頂きました。何が大切かを考える切っ掛けと成りました。

「仏道を修するとは、自己を修する事なり」と言う教えが有ります。自己と外界との関係づけを考えるうえでも、絵画を学ぶうえでも同じ事と考えます。絵画を観る、感じる、そして絵画と対話をする事が大切であると思います。

「いい絵画を観る時の幸せ。」

「絵画を描く事は、楽しい。」

様々の絵画に対し、偏り無き心で自由に楽しく鑑賞して頂けます事を願う次第です。

展覧会が開催できました事に対し、多くの絵画を提供して頂きました繁田隆様や他の御協力者様に深く感謝申し上げます。

今井美術館関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

多くの皆様様に、会場へお越し頂けます様に心より願っています。

合掌

